

第2章

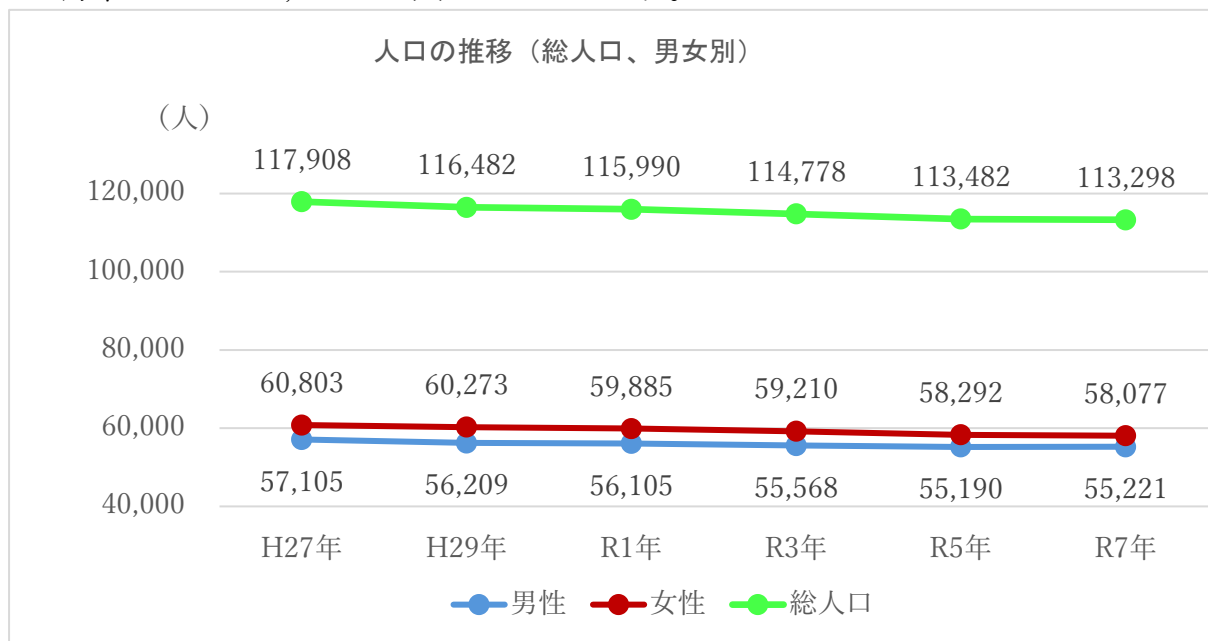
統計からみた市民の現状

第2章 統計からみた市民の現状

1 人口等の動向

(1) 人口の推移

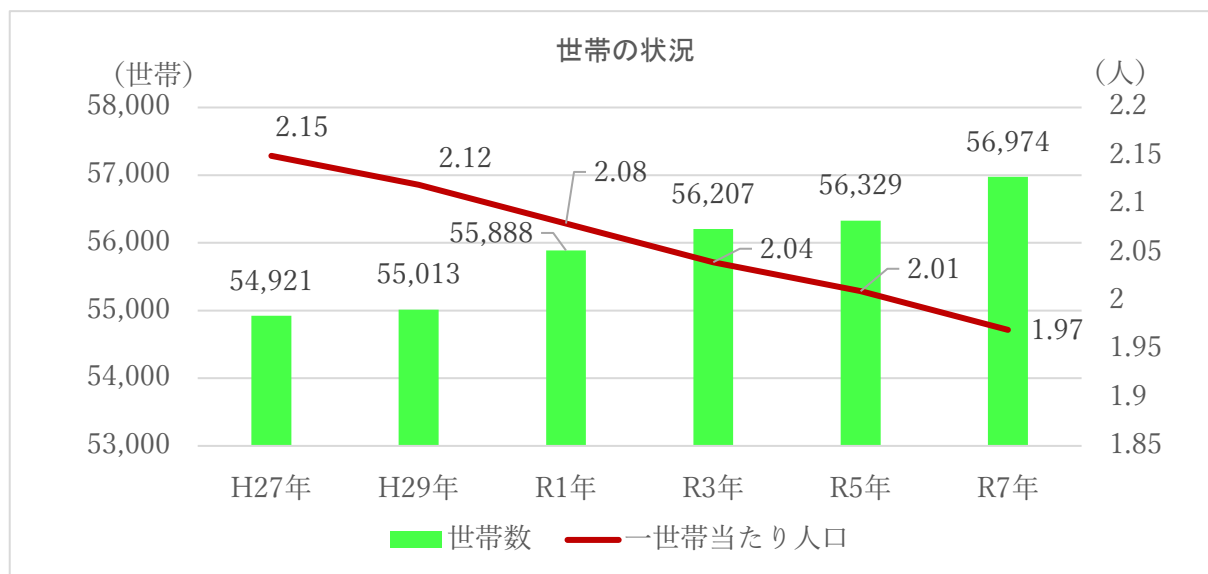
総人口、男女別人数ともに減少傾向にあり、総人口は令和7年（2025年）3月末では113,298人となっています。



資料：住民基本台帳（各年3月末時点）

(2) 世帯の状況

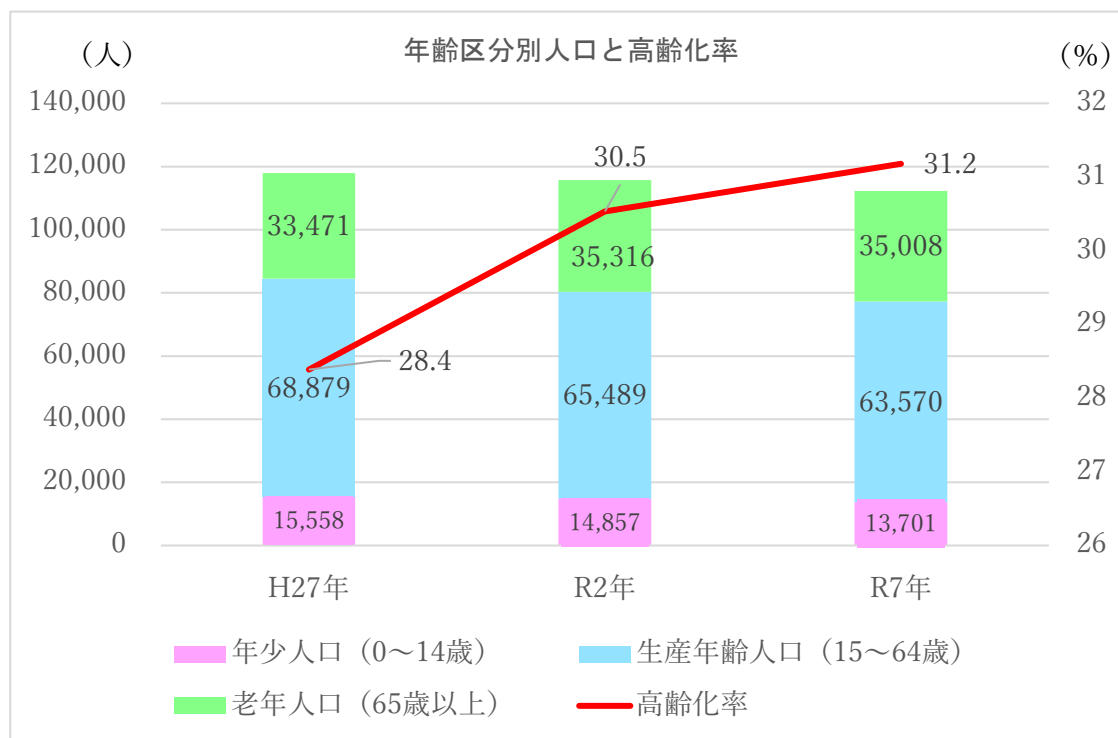
1世帯当たり人口は減少している一方、世帯数は増加傾向です。令和7年（2025年）3月末の1世帯当たり人口は1.97人、世帯数は56,974世帯となっています。



資料：住民基本台帳（各年3月末時点）

(3) 年齢3区分別人口の推移と高齢化率

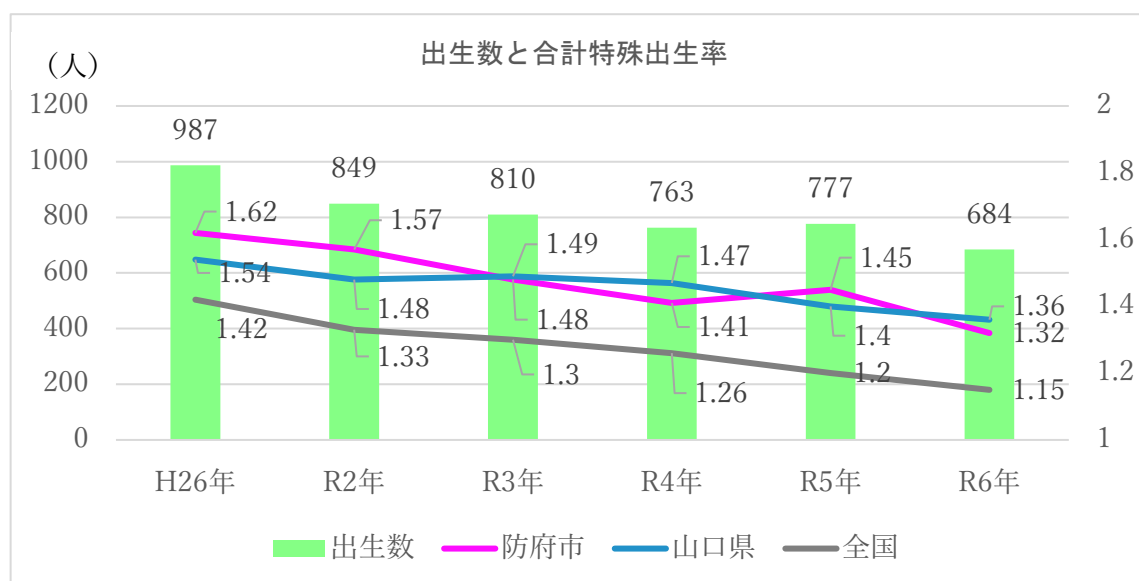
平成27年（2015年）と令和7年（2025年）の年齢3区分別人口を比較すると、少子高齢化が進行していることが分かります。令和7年（2025年）の高齢化率は31.2%です。



資料：住民基本台帳（各年3月末時点）

(4) 出生数と合計特殊出生率

出生数・合計特殊出生率ともに、減少傾向となっています。

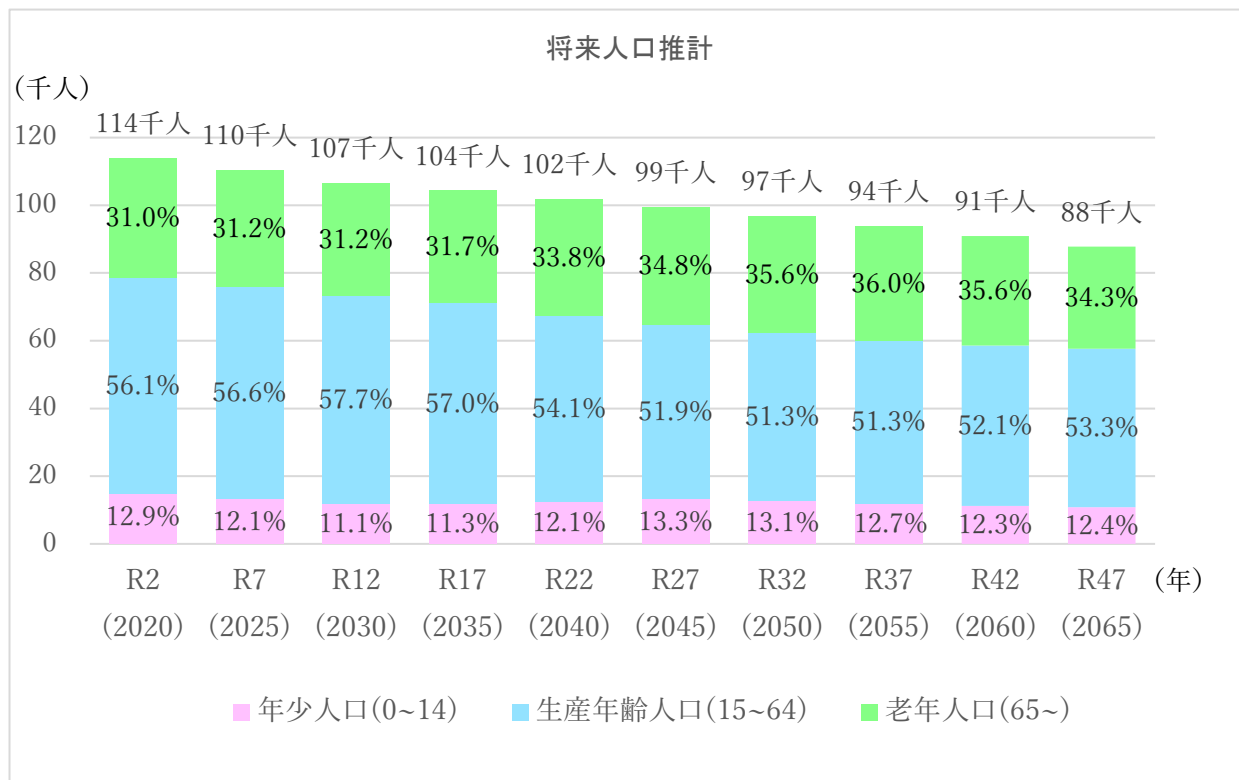


資料：出生数は住民基本台帳に基づく人口、人口動態と世帯数（総務省）

合計特殊出生率は防府市は県保健統計年報（山口県）、市町年齢別推計人口（山口県）より算出
前項・山口県については人口動態調査（厚生労働省）

(5) 将来人口推計

本市の総人口は減少傾向にあります。防府市人口ビジョンにおいて、将来にわたって人口8.8万人を維持することを目指しています。

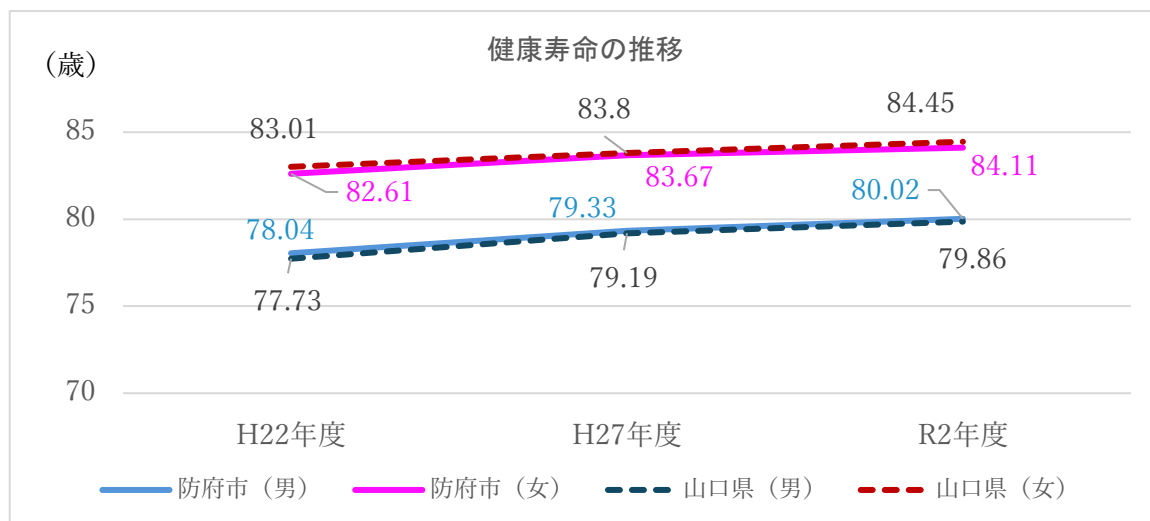
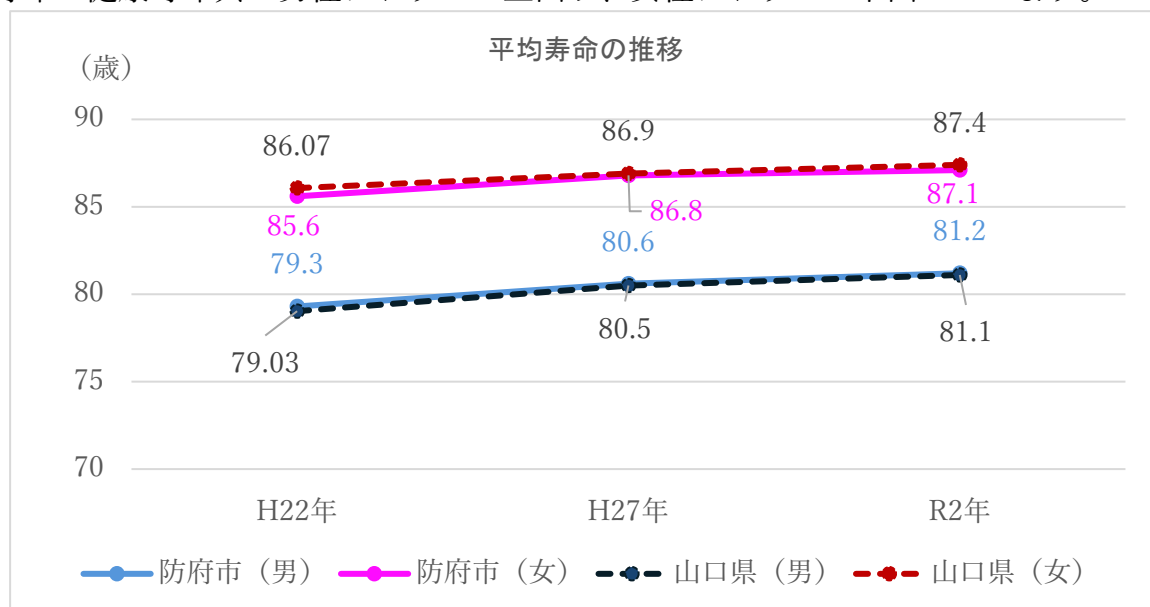


資料：防府市人口ビジョン

2 平均寿命と健康寿命

(1) 平均寿命と健康寿命

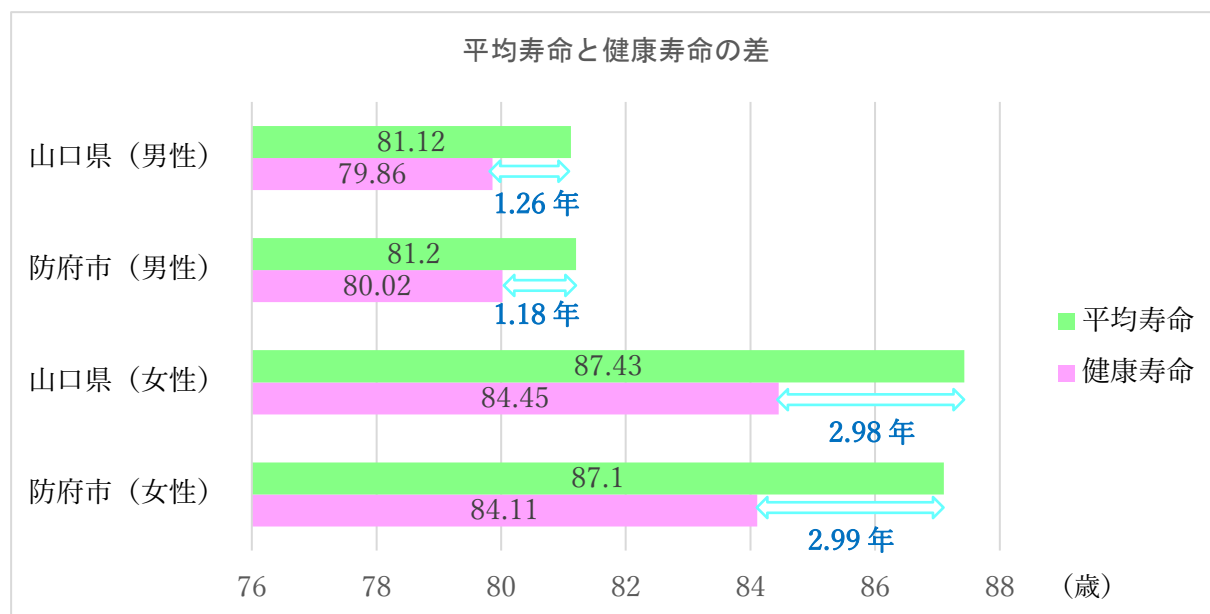
平均寿命・健康寿命は、県と同様に男女とも延伸しています。県と比較すると平均寿命・健康寿命共に男性はわずかに上回り、女性はわずかに下回っています。



健康寿命は、厚生労働省からは介護保険の要介護認定の情報を用いる指標と、国民生活基礎調査の結果を用いる指標が示されています。ここでは、市町村単位で確認できる介護保険の要介護認定の情報を用いる「日常生活動作が自立している期間の平均」（介護保険の要介護度2～5を不健康な状態とし、それ以外を健康な状態としている）データを記載しています。

（２）平均寿命と健康寿命の差

本市の男性の健康寿命と平均寿命の差は１．１８年で、県より小さいです。女性の差は２．９９年で、県よりわずかに大きいです。

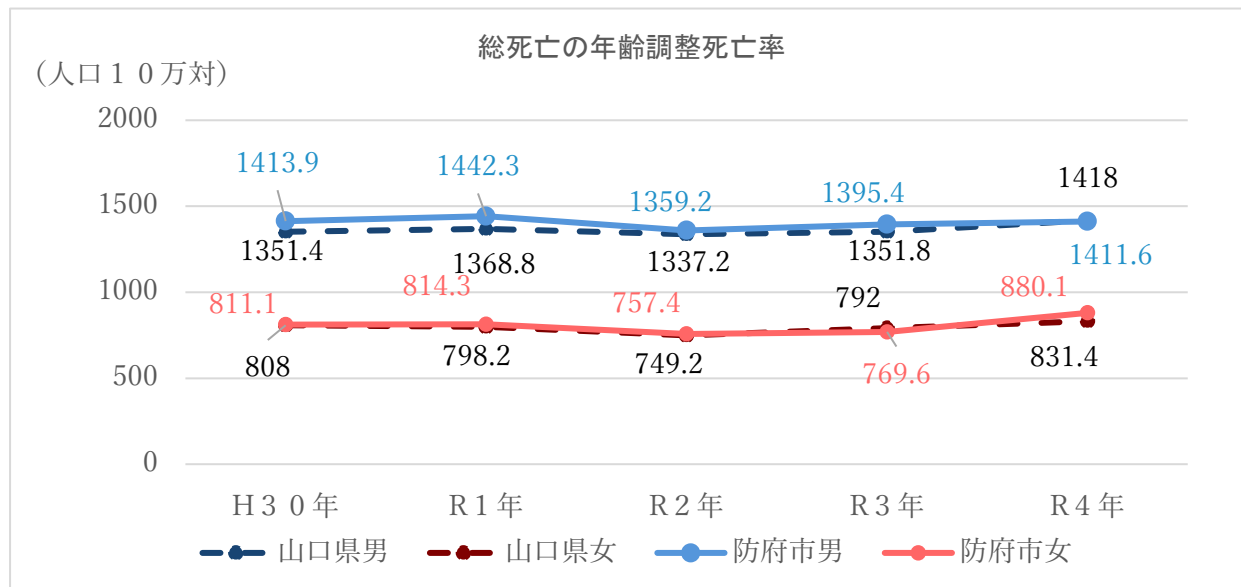


資料：山口県健康増進課・令和２年 生命表

3 死亡の状況

(1) 年齢調整死亡率（人口10万対）

本市の年齢調整死亡率（人口10万対）は、増減を繰り返しており、令和4年（2022年）では、山口県と比較すると、男性の数値は下回り、女性の数値は上回っています。

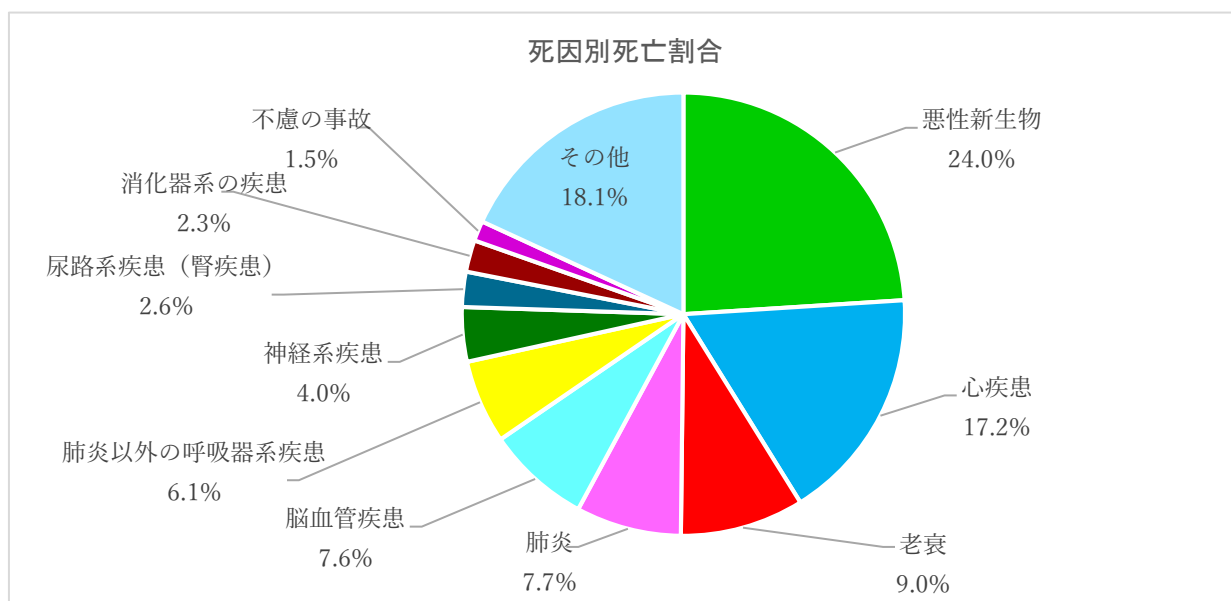


資料：やまぐち健康マップ（令和4年）

(2) 死因別死亡割合

本市の死因第1位は悪性新生物、2位は心疾患です。

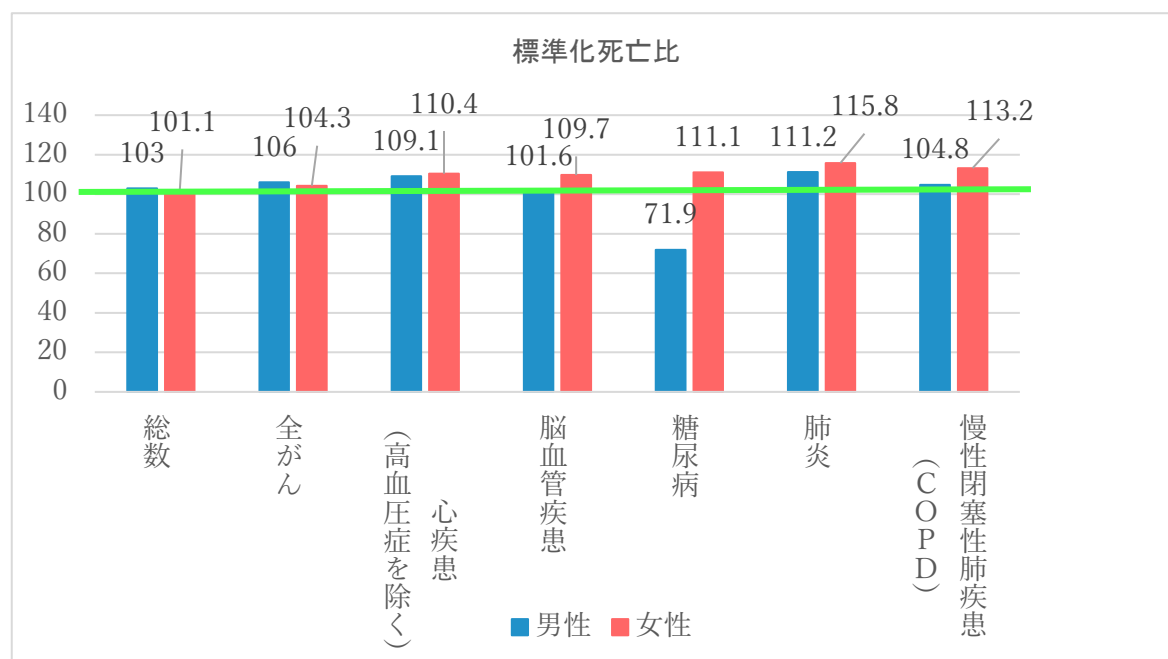
3大生活習慣病（悪性新生物・心疾患・脳血管疾患）が約半数を占めています。



資料：山口県保健統計年報（令和5年）

(3) 標準化死亡比

県を基準(100)とした本市の主要死因別標準化死亡比(平成30年～令和4年)をみると、糖尿病(男性)以外は高くなっています。



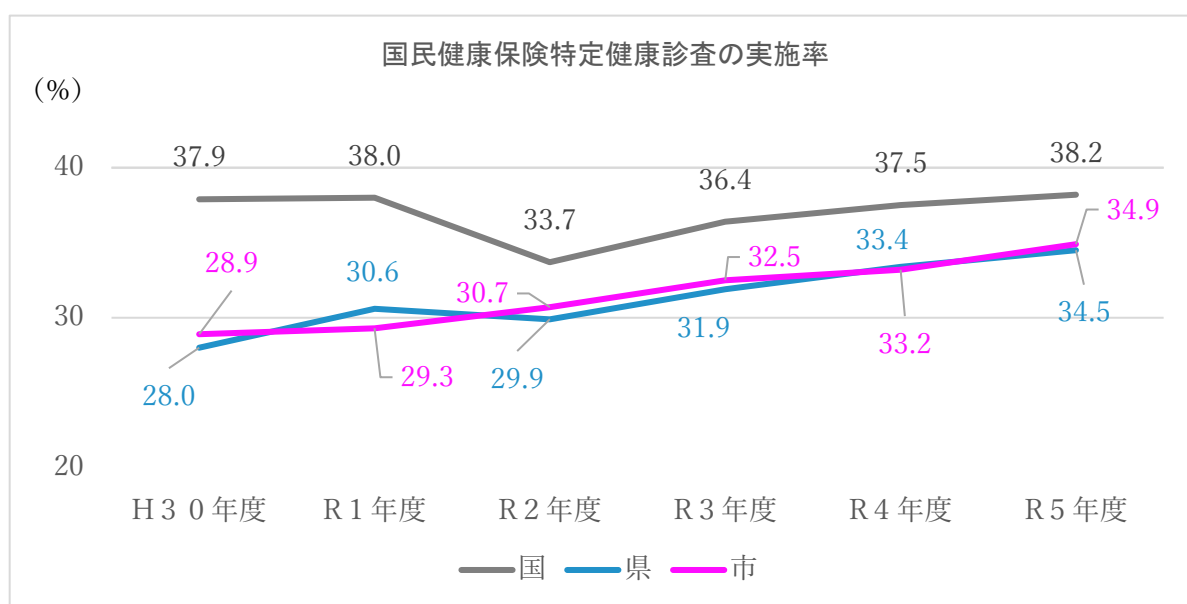
資料：やまぐち健康マップ（令和4年）

4 健診・医療・介護の状況

(1) 特定健康診査に関する状況

①国民健康保険特定健康診査実施率

本市の令和5年度（2023年度）国民健康保険被保険者数は19,541人で、本市の人口に占める国保加入率は17.2%です。そのうち、特定健康診査対象者は14,100人です。本市の特定健康診査実施率は、令和5年度（2023年度）は34.9%です。全国と比較すると3.3%下回っていますが、県と比較するとわずかに上回っています。また、本市の実施率は緩やかに上昇しています。



資料：防府市国民健康保険 第3期データヘルス計画 兼 第4期特定健康診査等実施計画

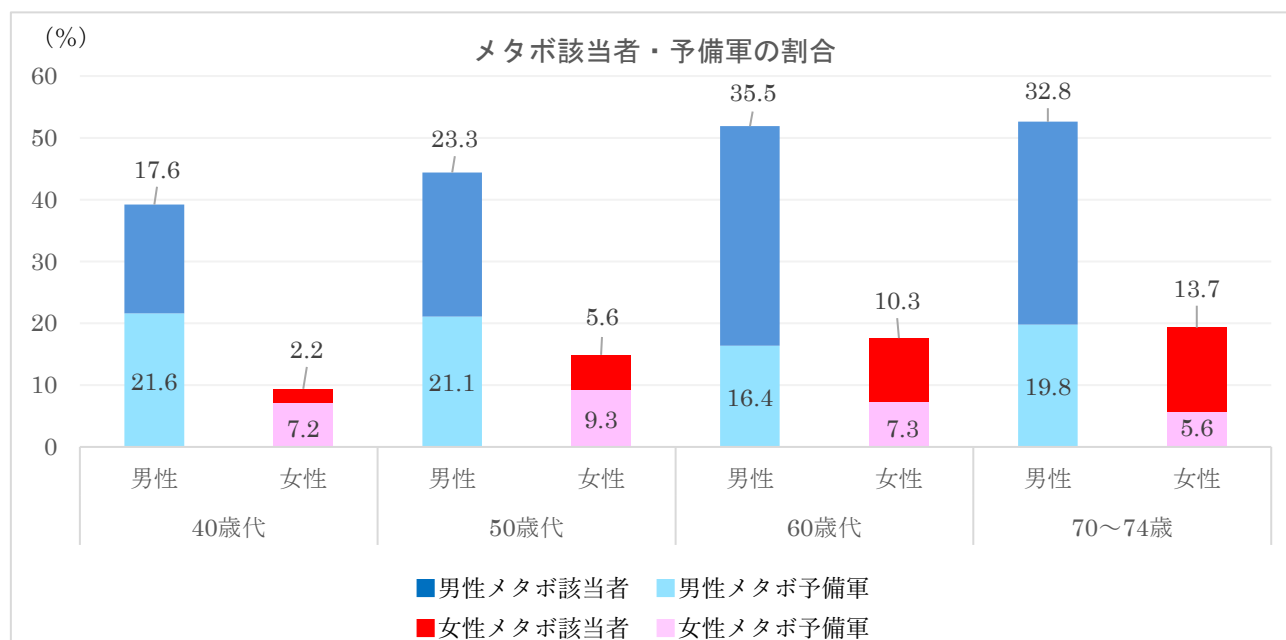
【特定健康診査】

特定健康診査は、保険者が実施主体となり、40～74歳の加入者を対象として行われる健診です。腹囲の計測など、「メタボリックシンドローム」の該当者や、その予備群を発見することを目的とした検査項目が導入されています。

②特定健康診査結果の状況

●メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

男性はメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）該当者・予備群の割合が約4～5割であり、男女とも年齢が上がるにつれ該当者・予備軍の割合が増加しています。



資料：国保データベース（KDB）システム（令和5年度）

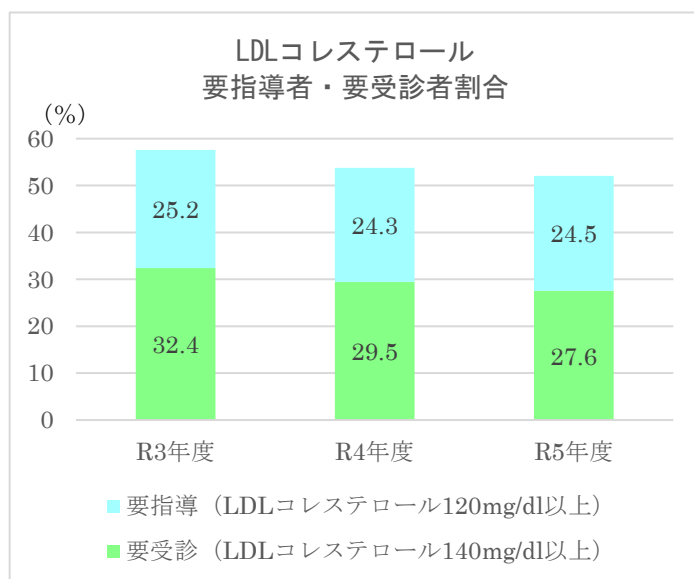
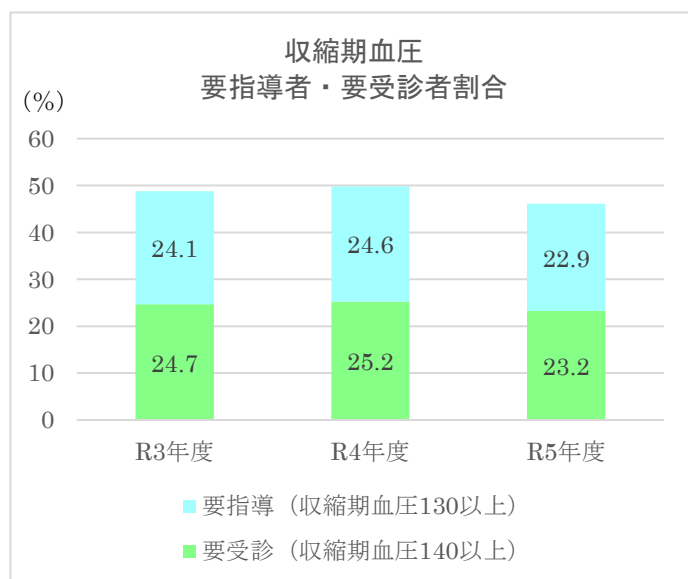
○メタボリックシンドロームとは

内臓肥満に高血圧・高血糖・脂質代謝異常が組み合わさることにより、心臓病や脳卒中などになりやすい病態のことです。

ウエスト周囲径が男性85cm、女性90cm以上で、かつ3項目（血圧・血糖・脂質）のうち2つ以上該当すると「メタボリックシンドローム」となり、1つ該当すると「メタボリックシンドローム予備軍」となります。

●収縮期血圧・LDL コレステロール（悪玉コレステロール）

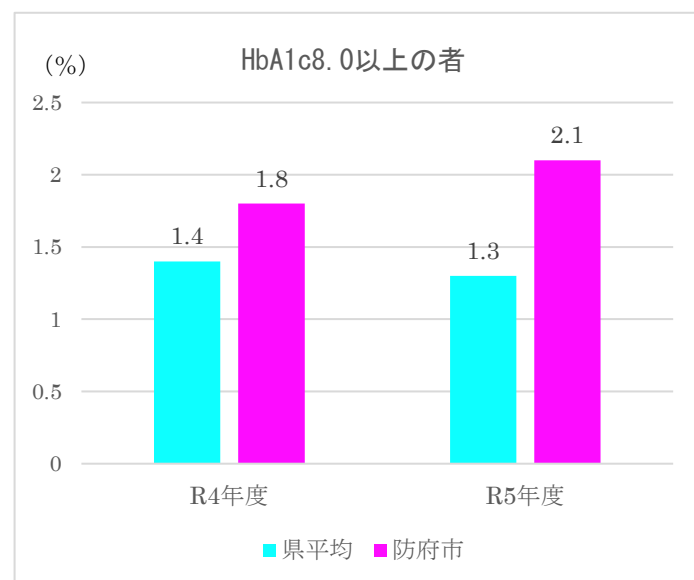
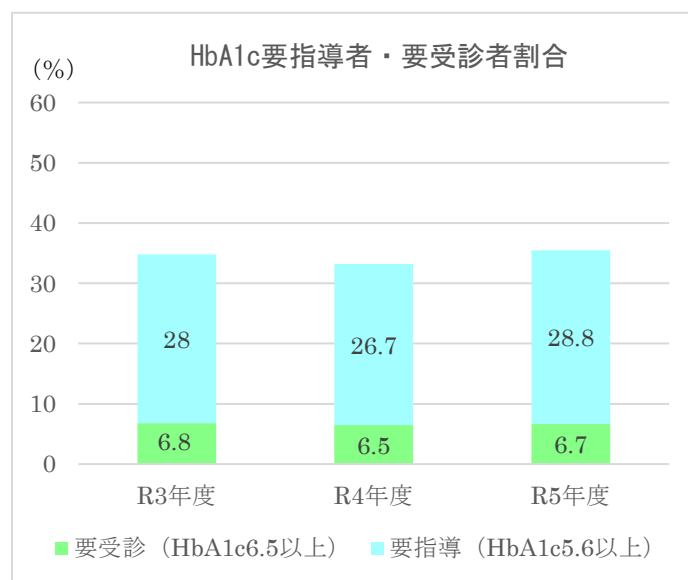
収縮期血圧・LDL コレステロール（悪玉コレステロール）の要指導者・要受診者の割合を見ると、受診者全体の約半数が該当しています。



資料：国保データベース（KDB）システム

●HbA1c（糖尿病検査）

HbA1c（糖尿病検査）の要指導者・要受診者の割合は受診者全体の約35%です。HbA1c 8.0以上の者（血糖コントロール不良者）の割合は、県平均と比較すると高く、令和5年度（2023年度）はさらに割合が増加しています。

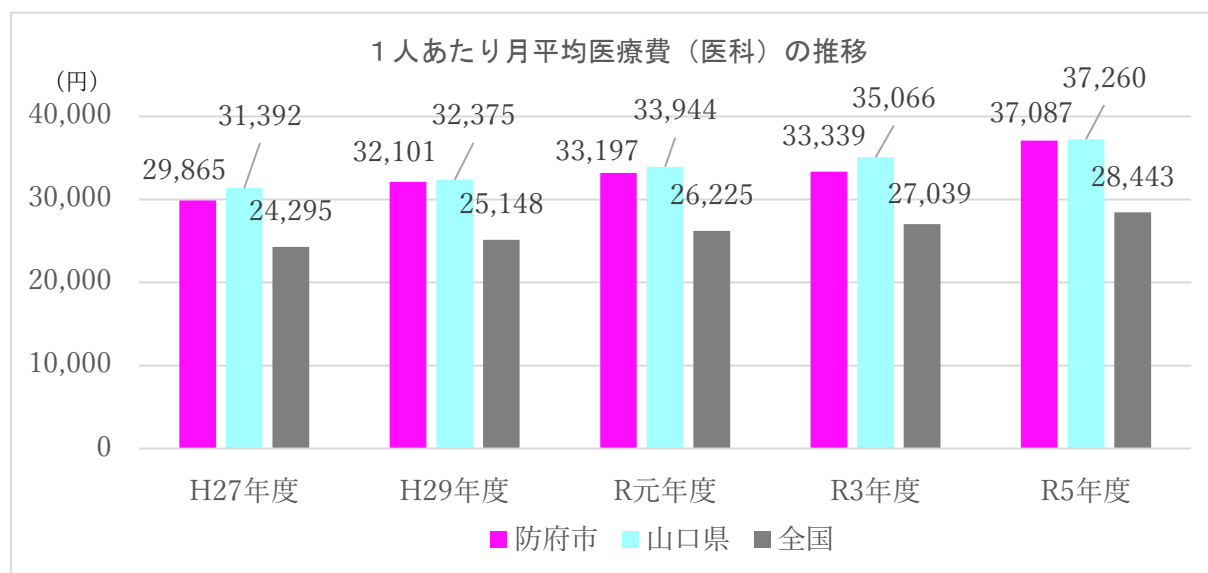


資料：国保データベース（KDB）システム

（２）国民健康保険医療費の状況

① １人当たり月平均医療費（医科）の推移

本市の１人当たり医療費は県より低く、国より高くなっています。また、本市の１人当たり医療費は国や県と同様に年々増加しています。



②医療費割合

本市の国民健康保険の医療費割合をみると、慢性腎不全（透析あり）が最も多く、次いで、糖尿病、統合失調症、関節疾患と続いています。

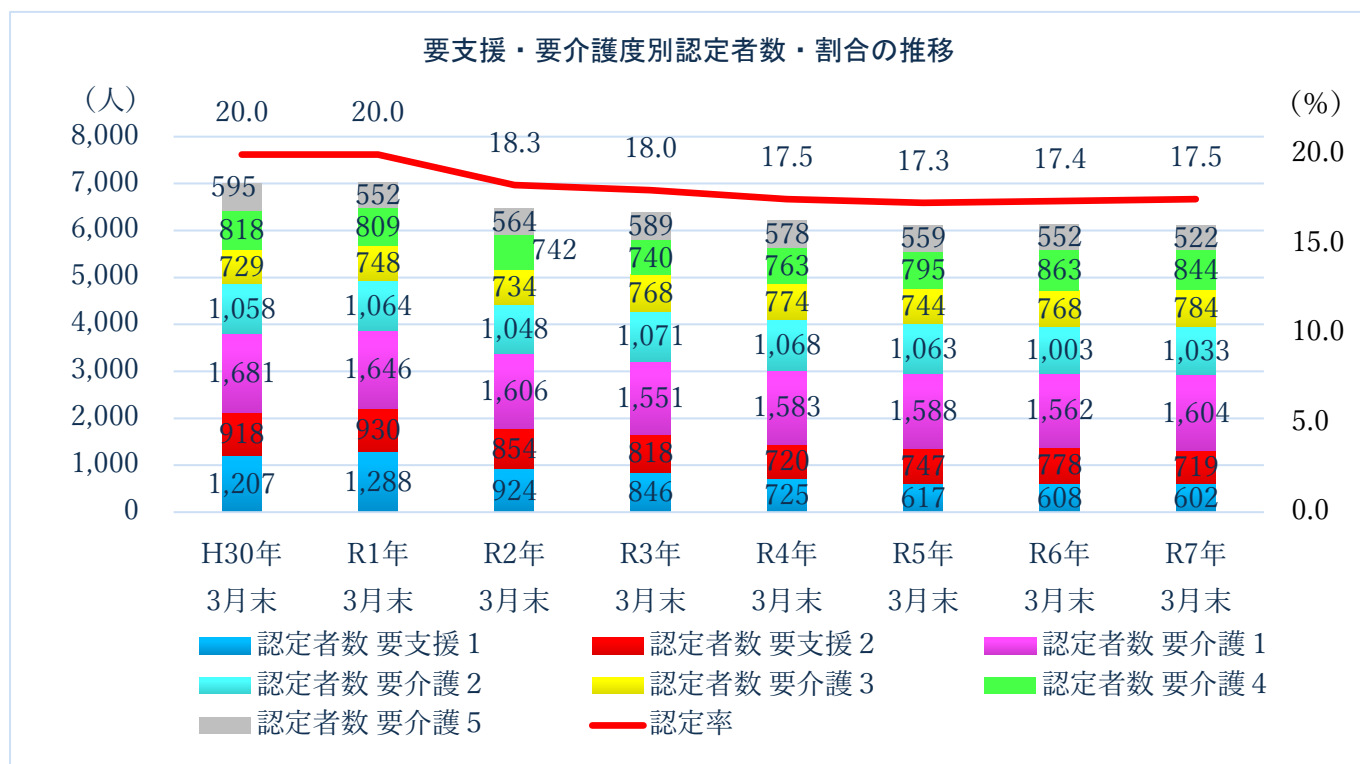
令和５年度 医療費割合：入院+外来（％）

順位	疾病分類	割合
1	慢性腎不全（透析あり）	4.6
2	糖尿病	3.9
3	統合失調症	3.9
4	関節疾患	3.9
5	肺がん	3.0
6	高血圧症	2.8
7	不整脈	2.7
8	脳梗塞	2.3
9	大腸がん	2.3
10	うつ病	1.9

資料：国保データベース（KDB）システム

(3) 介護の状況（第1号被保険者の要介護認定者数・割合の推移）

介護保険の要介護等の認定を受けている人は令和2年（2020年）以降は大きく減少し、それに伴い、認定率も低下しました。これは、令和元年度（2019年度）から開始した、虚弱な高齢者については要介護等認定の前に事業対象者※の認定を行い、速やかに介護予防・日常生活支援総合事業サービスにつなぐ取組の結果によるものです。令和7年（2025年）3月末現在認定者割合は17.5%です。



資料：介護保険事業状況報告

※事業対象者・・・介護予防・生活支援サービス事業の対象者。基本チェックリストを実施し、定められた基準に該当すれば、要介護等認定を受けなくてもサービスの利用が可能。

5 健やかほうふ21計画（第2次）の取組と評価

健やかほうふ21計画（第2次）で取り組んだ7つの分野について、中間評価（令和2年度）と最終評価（令和7年度）とを比較し、以下のA～Eにより達成度を判定しました。

- A：目標に達している（達成率 $\geq 100\%$ ）
- B：改善しているが、目標に達していない（ $5\% < \text{達成率} < 100\%$ ）
- C：変わらない（ $-5\% \leq \text{達成率} \leq 5\%$ ）
- D：悪化している（達成率 $< -5\%$ ）
- E：評価困難

達成率：中間評価時からどれだけ目標に近づいたかを示しています。

<計算式>

達成率（％）＝（中間評価－現状値）／（中間評価－目標値）

(1) 栄養・食育：①栄養バランスに気をつけよう

指標		中間 評価	最終 評価	目標値	判定	出典
朝食の摂取率の増加	小学5年生	83.0%	86.1%	100%	B	学校教育課資料「食育アンケート」
	中学2年生	83.4%	83.9%		C	
	20歳代男性 20歳代女性	65.0% 83.3%	77.8% 68.8%	80%	B D	アンケート調査
栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人の割合の増加	20歳代男性	15.0%	55.6%	50%	A	アンケート調査
	20歳代女性	25.0%	31.3%		B	
	40歳代男性	41.2%	38.1%		D	
	50歳代男性	32.4%	29.6%		D	
主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べる日が週に6日以上ある人の割合の増加	20歳代男性	15.0%	66.7%	40%	A	アンケート調査
	20歳代女性	25.0%	31.3%	40%	B	
	40歳代男性	35.3%	28.6%	40%	D	
	50歳代男性	41.2%	33.3%	50%	D	
1日に野菜を3皿以上食べる人の割合の増加	20歳代男性	55.0%	33.3%	40%	D	アンケート調査
	20歳代女性	45.8%	31.3%		D	
	40歳代男性	32.4%	42.8%		A	
	50歳代男性	38.2%	37.0%		D	
やまぐち健康応援団に登録している店舗・施設・事業所の増加	食と栄養によるまちづくりの分野の登録施設数	15	13	20	D	山口県健康増進課資料

判定	A	B	C	D	E
項目数	3	4	1	9	0
割合(%)	17.6	23.5	5.9	52.9	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

(D) の判定が半数以上でした。

「栄養バランス等に配慮した食生活を送っている人の割合の増加」、「主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べる日が週に6日以上ある人の割合の増加」

合の増加」は共に、20歳代男女では目標達成・改善傾向であったものの、40・50歳代男性では悪化しています。

「1日に野菜を3皿以上食べる人の割合の増加」では、40歳代男性以外は悪化しています。

第2次計画の主な取組

保育所・幼稚園では、早寝早起き朝ごはん、バランスよく食べることの大切さについてこどもと保護者へ伝える取組に力を入れてきました。また、地域の健康教室やイベント、食生活改善推進協議会が実施する料理教室等において、主食・主菜・副菜のそろったバランスの良い食事や野菜摂取の大切さについて、こどもから高齢者に対して調理実習等の体験を通じた啓発を行いました。

今までの取組を継続するとともに、指標で特に悪化傾向にあった壮年期以降に対して、バランスの良い食事等健康的な食習慣を実践できるよう働きかける必要があります。



(1) 栄養・食育：②食への感謝を次の世代へつなげよう

指標		中間評価	最終評価	目標値	判定	出典
ほとんど毎日共食する人の割合（朝食）の増加	20歳代男性	25.0%	33.3%	35%	B	アンケート調査
	30歳代男性	9.5%	28.6%	55%	B	
	40歳代男性	32.4%	42.9%		B	
	50歳代男性	35.3%	37.0%		B	
ほとんど毎日共食する人の割合（夕食）の増加	20歳代男性	45.0%	77.8%	65%	A	アンケート調査
	30歳代男性	38.1%	42.9%		B	
	40歳代男性	55.9%	38.1%	50%	D	
	50歳代男性	26.5%	55.6%		A	
食育に関心がある人の割合の増加	20歳代男性	85.0%	88.9%	70%	A	アンケート調査
	20歳代女性	83.3%	75.0%		A	
	30歳代男性	81.0%	66.7%		D	
よくかんで味わって食べるなどの食べ方に関心のある人の割合	成人	63.8%	—	80%	E	アンケート調査
地域の郷土料理を食べたり、地場産物を活用することを心がけている人の割合の増加	成人男性	33.7%	37.0%	50%	B	アンケート調査
	成人女性	51.9%	51.4%	70%	C	

「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつを心がけている人の割合の増加	20歳代男性	53.8%	77.8%	80%	B	アンケート調査
	20歳代女性	87.9%	100%		A	
	30歳代男性	80.6%	80.6%		A	
箸の正しいもち方を教えている人の割合の増加	年長児の保護者	87.7%	88.1%	95%	B	アンケート調査

判定	A	B	C	D	E
項目数	6	8	1	2	1
割合(%)	33.3	44.4	5.6	11.1	5.6

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

(A) (B) の判定が8割近くでした。

ほとんど毎日共食する人の割合は朝食・夕食共に全体的に増加していました。

「『いただきます』、『ごちそうさま』のあいさつを心がけている人の割合の増加」は、改善・目標達成しており、20歳代女性は100%でした。

第2次計画の主な取組

農業・漁業に関する地域の各団体やスーパーマーケットでは、イベントやこども達への食育活動を行い、地場産食材の活用や適切に食を選択する力を身につけるための啓発を行いました。また、年齢に応じた食事マナー（食事のあいさつ・はしのもち方等）の指導や、郷土料理の伝承など、食育を通じた豊かな人を育むための取組を推進しました。

食育への関心の高まりや、食への感謝、食事マナーの伝承などの項目で成果がみられます。引き続き、共食の機会やイベント等を通じた食育の推進が必要です。



(2) 歯と口の健康：歯の検診を定期的に受けよう

指標		中間 評価	最終 評価	目標値	判定	出典
むし歯(う歯)のある人の割合 (処置完了者を含む。)の減少	1歳6か月児	1.3%	0.9%	0%	C	令和6年度母子保健 事業報告 令和6年度防府市学 校保健統計
	3歳児	14.1%	9.0%	10%	A	
	小学生	43.9%	37.5%	40%	A	
	中学生	36.4%	23.0%	48%	A	
歯ぐきが赤く腫 れてぶよぶよし たり、歯を磨い た時に血が出る ことがある人の 割合の減少	小学生	3.0%	3.8%	0%	D	令和6年度防府市学 校保健統計 アンケート調査
	中学生	2.2%	3.7%	5%	A	
	高校生	5.5%	3.3%	5%	A	
	20歳代	9.1%	8.0%	5%	B	
	40歳代	11.0%	9.4%	10%	A	
	60歳代	8.2%	6.9%	5%	B	
過去1年間に歯 科検診を受診し た人の割合の増 加	妊婦	34.7%	60.0%	65%	B	アンケート調査
	成人	52.8%	59.9%		B	
咀嚼 ^{そしゃく} 良好者(食 事のとき何でも 噛める人)の割 合の増加	60歳代	59.1%	51.0%	70%	D	アンケート調査

判定	A	B	C	D	E
項目数	6	4	1	2	0
割合(%)	46.2	30.8	7.7	15.4	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

(A) の判定が一番多く、約半数でした。

「虫歯(う歯)のある人の割合の減少」、「歯ぐきが赤く腫れてぶよぶよしたり、歯を磨いた時に血が出ることもある人の割合の減少」については、多くの項目で改善・目標達成しています。

「咀嚼^{そしゃく}良好者(食事のときなんでも噛める人)の割合の増加」は悪化しています。「過去1年間に歯科検診を受診した人の割合の増加」は、妊婦、成人ともに改善していましたが、目標には達していません。

第2次計画の主な取組

歯科医師会では、企業歯科健診や集団歯科健診の実施、歯と口の健康週間にあわせた無料歯科健康診断の実施等、市民が歯科健診を受診しやすいよう取り組みました。

妊婦や乳幼児健診時での周知啓発や小学校でのフッ素洗口等こどものときから歯と口の健康へ関心が高められるよう啓発を強化しました。

予防歯科に対する啓発により、虫歯予防や歯科検診を受診する人の増加については、成果が出ていると言えます。引き続き、こどもから高齢者まで歯と口の健康へ関心が高められるための取り組みが必要です。



(3)身体活動・運動：いつでもどこでも体を動かそう

指標		中間評価	最終評価	目標値	判定	出典
普段運動不足を感じている人の割合の減少	20 歳代女性	79.2%	68.8%	60%	B	アンケート調査
	30 歳代女性	77.4%	77.4%		C	
	40 歳代男性	67.6%	85.7%		D	
	40 歳代女性	76.9%	65.6%		B	
	50 歳代男性	61.8%	74.1%		D	
日常生活において、健康の維持・増進のためにいつも意識的に体を動かすように心がけている人の割合の増加	20 歳代女性	12.5%	6.3%	50%	D	アンケート調査
	30 歳代女性	12.5%	12.9%		C	
	40 歳代男性	11.6%	14.3%		B	
	40 歳代女性	5.1%	18.8%		B	
	50 歳代男性	14.7%	11.1%		D	
1 日 30 分以上の、軽く汗をかく運動を週 2 回以上、1 年以上継続して実施している人の割合の増加	20 歳代女性	12.5%	25.0%	20%	A	アンケート調査
	30 歳代女性	12.9%	25.8%	20%	A	
	40 歳代男性	23.5%	19.0%	40%	D	
	40 歳代女性	10.3%	18.8%	15%	A	
	50 歳代男性	26.5%	29.6%	45%	B	
ロコモ該当者の割合の減少	40 歳代男性	10.8%	4.8%	10%	A	健康づくりに関する県民意識調査（中間評価）
	40 歳代女性	15.0%	12.8%	15%	A	
	50 歳代男性	29.7%	25.9%	15%	B	
	50 歳代女性	27.5%	21.6%	15%	B	
	60 歳代男性	17.8%	43.8%	20%	D	アンケート調査（最終評価）
	60 歳代女性	35.2%	35.2%	20%	C	
	70 歳代男性	49.1%	47.3%	35%	B	
	70 歳代女性	54.4%	54.0%	50%	B	

やまぐち健康応援団に登録している店舗・施設・事業所の増加	身体活動・運動による健康のまちづくりの分野の登録施設数	0	1	3	B	山口県健康増進課資料
「やまぐち健幸アプリ」の登録者数、企業登録数（地域を「防府市」で登録している）	登録者数(人)	2338	5392	4000	A	山口県健康増進課資料
	企業数(社)	11	33	50	B	

判定	A	B	C	D	E
項目数	6	11	3	6	0
割合(%)	23.1	42.3	11.5	23.1	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

(A) (B)の判定が6割以上でした。

「1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している人の割合の増加」は、多くの項目で改善・目標達成していますが、40歳代男性では悪化していました。

また、「普段運動不足を感じている人の割合の減少」や、「日常生活において、健康の維持・増進のためにいつも意識的に体を動かすように心がけている人の割合の増加」では、どの世代も目標を達成しておらず、悪化している世代もあります。

第2次計画の主な取組

「幸せます！健やか階段ステッカー」を保育所や幼稚園、各団体や商業施設に設置し、日常生活で意識して体を動かせるよう環境づくりを行いました。また、イベントや地域でのつどいの場を通して体を動かす楽しさや活動量を増やす大切さについて幅広い世代に啓発をしました。「やまぐち健幸アプリ」を活用し、仲間同士や企業内で歩数を増加させるための取組を行う人は増加しました。

体を動かす意識を高めやすい環境づくりや仲間と一緒に取り組めるよう働きかけを行いました。引き続き身体活動・運動の健康面への効果や身体を動かす楽しさの啓発、体を動かしやすい環境づくりを行う必要があります。



(4)日頃の健康管理：声をかけ合ってケンシンを受けよう

指標		中間 評価	最終 評価	目標 値	判定	出典
健康診査受診率の向上	60歳代男性	74.6%	77.1%	80%	B	アンケート調査
	60歳代女性	56.9%	81.5%	80%	A	
特定健康診査受診率の向上		28.9% (5,018人)	34.9% (4,922人)	60%	B	特定健診等データ管理システム
特定保健指導実施率の向上		11.5%	10.4%	60%	C	
各種がん検診の受診率(全世代)の向上	胃がん検診	3.3% (1,867人)	2.8% (720人)	6%	D	地域保健・健康増進事業 (令和5年度) ※最終評価の受診率はR7年6月の県資料
	バリウム内視鏡	(336人)	(366人)			
	肺がん検診	2.6% (1,867人)	1.7% (1,210人)	7%	D	
	大腸がん検診	3.2% (2,304人)	3.1% (2,231人)	7%	C	
	子宮がん検診	14.2% (3,416人)	14.0% (3,397人)	20%	C	
	乳がん検診	10.4% (1,952人)	9.6% (1,896人)	15%	D	

判定	A	B	C	D	E
項目数	1	2	3	3	0
割合(%)	11.1	22.2	33.3	33.3	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

「健康診査の受診率の向上」については、改善・目標達成しています。

「特定健康診査受診率の向上」は改善が見られるものの、目標は達成していません。「各種がん検診の受診率の向上」は維持、または悪化しています。

第2次計画の主な取組

医師会、歯科医師会、薬剤師会等地域の関係団体が協力してケンシンの受診勧奨を行いました。市ではがん検診受診率向上のため科学的に認められた手法で、対象者全員への受診勧奨や受診しやすい体制づくりを行いました。また、「幸せますケンシンまつり」を開催し、幅広い世代に対しケンシンの大切さを啓発しました。特定健診受診率向上のために、人工知能(AI)を活用した受診勧奨ハガキの送付等、様々なアプローチを行いました。

がん検診は、職域検診や人間ドック等でも実施されているため、職域や各保険者とも情報共有、更なる対策を検討する必要があります。また、特定健康診査・保健指導についても、更に受診率を高める対策が必要です。



(5)喫煙：将来たばこを吸わない若者を育てよう

指標		中間 評価	最終 評価	目標 値	判定	出典
たばこの害を知っている人の割合の増加	小学 5 年生	75.5%	66.1%	100%	D	アンケート調査
	中学 2 年生	93.9%	97%	100%	B	
	高校 2 年生	97.6%	96.4%	100%	D	
(たばこに関心があると答えた人のうち) 将来たばこを吸いたいと思う人の割合の減少	小学 5 年生	9.8%	37%	0%	D	
	中学 2 年生	6.9%	10.7%	10%	D	
	高校 2 年生	5.3%	23.1%	5%	D	
<※参考データ> たばこに関心があると答えた人の割合	小学 5 年生	22.0%	3.4%	-	-	
	中学 2 年生	23.8%	4.0%	-	-	
	高校 2 年生	10.3%	4.3%	-	-	
※たばこに関心があると答えた人が大きく減少しており、指標である「将来たばこを吸いたいと思いますか」の間に回答した人数が大きく減少しています。						
現在たばこを吸っている人の割合（毎日・時々吸うと答えた人）の減少	男性	30%	19.4%	15%	B	
	女性	7.6%	7.3%	2%	B	
妊娠中に喫煙している人の割合の減少	妊婦	3.4%	2.8%	0%	B	防府市妊娠届出書 (令和 5 年度)
喫煙している子育て中の親	1 歳 6 か月児健診の父親	41.5%	33%	30%	B	アンケート調査
	3 歳児健診の父親	44.5%	32.8%	30%	B	
禁煙したいと思う人の割合の増加	成人	26.2%	21.6%	30%	D	
最近 1 か月の間に受動喫煙の機会があった人の割合の減少 ※「ほぼ毎日」を選択したもの	職場	14.8%	4.7%	0%	B	
	家庭	7.6%	7.7%	3%	C	
	飲食店	1.1%	1%	1%	A	
COPD を知っている人の割合の増加	成人	18.5%	17.1%	50%	C	

やまぐち健康応援団に登録している店舗・施設・事業所の増加	社会環境の整備による健康のまちづくりの分野・たばこ対策の実施の登録施設数	57	55	70	D	山口県健康増進課調査
------------------------------	--------------------------------------	----	----	----	---	------------

判定	A	B	C	D	E
項目数	1	7	2	7	0
割合(%)	5.9	41.2	11.8	41.2	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

「たばこの害を知っている人の割合の増加」については、小学生・高校生で減少していますが、中高生では95%以上がたばこの害を知っていると回答しています。

「現在たばこを吸っている人の割合の減少」は成人男女・妊婦ともに改善していますが、目標には達していません。

「最近1か月の間に受動喫煙の機会があった人の割合の減少」は全体的に改善しており、飲食店は目標を達成しています。

第2次計画の主な取組

薬剤師会では、学校に出向き子ども達に喫煙の害についての教育や、イベント等では体験を通じて禁煙の必要性について工夫して普及啓発を行いました。

市では喫煙者が禁煙に取組みやすいよう市内の禁煙外来一覧、禁煙相談薬剤師をまとめたリーフレットを作成し、妊娠届出時や乳幼児健診、がん検診等様々な機会を捉えて喫煙の害や禁煙方法に関して啓発しました。

健康増進法の改正による分煙対策の強化等により、喫煙に関する環境は大きく変わり、喫煙者の割合やたばこに関心のある子どもは減少しています。引き続き、禁煙対策や、COPDに関する正しい知識の普及啓発が必要です。



(6)①親のこころ、子のこころ：安心して子育てができるように応援しよう

指標		中間 評価	最終 評価	目標値	判定	出典
主体的に育児に関わっている父親の割合の増加（父親が回答）	乳児の父親 年長児の父親	62.5% 52.5%	76.4% 57.7%	70%	A B	アンケート調査
家族みんなで過ごす時間をもつように心がけている父親の割合の増加（父親が回答）	乳児の父親 年長児の父親	80.6% 73.8%	85.5% 76.1%	90%	B B	アンケート調査
こどもを感情的に怒ってしまうことがある母親の割合の減少※「よくある」と回答した人	1歳6か月児の母親	1.3%	3.6%	5%	A	アンケート調査
	年長児の母親	13.6%	13.6%		C	
こどもを虐待していると思うことがある親の割合の減少	3歳児の親 年長児の親	3.5% 5.3%	6.1% 5.8%	0%	D D	アンケート調査
こどもに育てにくさを感じたときに相談先を知っているなどの、解決方法を知っている母親の割合の増加	乳児の母親 3歳児の母親 年長児の母親	70.0% 90.0% 85.4%	100% 90.7% 82.8%	100%	A B D	アンケート調査
※問「お子さんに対して育てにくさを感じていますか」の問に対して、「いつも感じる」「時々感じる」と回答した人						
必要時にこどもを預かってくれる人がいる母親の割合の増加	乳児の母親 3歳児の母親 年長児の母親	90.3% 83.7% 85.7%	78.2% 83.5% 83.9%	90%	D C D	アンケート調査
今後もこの地域で子育てをしたいと思う母親の割合（そ	乳児の母親 3歳児の母親 年長児の母親	94.4% 92.2% 93.9%	96.4% 97.4% 93.7%	95%	A A D	アンケート調査

う思う、どちらかといえばそう思う)の増加						
妊娠期から子育て中の親等からの相談件数(件)		2817	3195	増やす	A	市こども相談支援課資料

判定	A	B	C	D	E
項目数	6	4	2	6	0
割合(%)	33.3	22.2	11.1	33.3	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

「主体的に育児に関わっている父親の割合の増加」や「家族みんなで過ごす時間をもつように心がけている父親の割合の増加」で改善傾向がみられるものの、「こどもを虐待していると思うことがある親の割合の減少」や「必要時にこどもを預かってくれる人がいる母親の割合の増加」など悪化している項目もあります。

「今後もこの地域で子育てをしていきたいと思う母親の割合」は乳児・3歳児の母親は目標に達しており100%に近づいています。

第2次計画の主な取組

令和6年度（2024年度）からは、母子保健機能と児童福祉機能が一体となり、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うためのこども子育て拠点として、「こども家庭センター」を開設し、専門職による相談支援を行いました。また、子育て中の親が孤立せず、安心して育児ができるよう保育所・幼稚園、医療機関や学校、母子保健推進員等、地域の関係団体と連携を図りながら支援を行いました。

各種教室や相談会等の予約を母子手帳アプリ（母子モ）から行うなど情報発信の強化に努めました。

核家族化が進むなど、相談相手が少なくなる中で、誰もが安心して妊娠、出産、子育てをしていくためには、こども家庭センターだけでなく、地域で気軽に相談できる環境づくりが必要です。子育て中の親が安心して育児を行えるように、関係機関や子育て支援団体とも連携を図りながら、引き続き「防府市こども計画～ほうふっ子みらいプラン～」により取組を推進していきます。



(6)②みんなのこころ：お互いに思いやりこころの健康を守ろう

指標		中間 評価	最終 評価	目標値	判定	出典
自分なりのストレス解消法をもっている人の割合の増加	20 歳代男性	85.0%	88.9%	90%	B	アンケート調査
	20 歳代女性	83.3%	68.8%	80%	D	
	30 歳代男性	71.4%	57.1%	90%	D	
	30 歳代女性	61.3%	83.9%	70%	A	
	40 歳代男性	82.4%	61.9%	70%	D	
	40 歳代女性	64.1%	68.8%	80%	B	
	50 歳代男性	73.5%	55.6%	80%	D	
	50 歳代女性	77.8%	59.5%	80%	D	
困った時に相談できる人のいる割合の増加	中学生男子	72.3%	78.9%	80%	B	アンケート調査
	高校生男子	67.5%	82.2%		A	
	40 歳代男性	73.5%	66.7%		D	
	50 歳代男性	61.8%	59.3%		D	
	60 歳代男性	78.0%	66.7%		D	
	70 歳代男性	72.1%	60.0%		D	
心の悩みについて相談できる窓口を知っている人の割合の増加	成人	28.8%	47.5%	50%	B	アンケート調査
自分のことが好き、まあまあ好きな人の割合の増加	中学生男子	61.5%	76.6%	60%	A	アンケート調査
	中学生女子	49.7%	61.0%	60%	A	
	高校生男子	49.8%	72.2%	60%	A	
	高校生女子	42.2%	61.1%	45%	A	
ゲートキーパー（ココロぽっとサポーター）を養成していることを知っている人の割合の増加	成人	8.3%	6.2%	50%	C	アンケート調査
睡眠による休養が十分とれている人の割合	40 歳代	50.7%	58.8%	70%	B	アンケート調査
	50 歳代	54.3%	50.0%		D	
ゲートキーパー（ココロぽっとサポーター）養成講座を受講した人の増加(人)		1,075	1481	1,300	A	アンケート調査

判定	A	B	C	D	E
項目数	7	5	1	10	0
割合(%)	30.4	21.7	4.3	43.5	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

(D) の判定が一番多く、4割を占めていました。中高生に関する項目はすべて目標を達成していました。

「自分なりのストレス解消法をもっている人の割合の増加」では、20歳代男性・30歳代女性で80%を超えているものの、全体としては減少し、悪化傾向にあります。

「困った時に相談できる人のいる割合の増加」では、壮年期以上の世代で悪化していました。

「心の悩みについて相談できる窓口を知っている人の割合の増加」は改善していましたが、目標には達していません。

第2次計画の主な取組

医師会、歯科医師会、薬剤師会が主催の健康講座で心の健康と関係が深い睡眠の大切さについて、多くの市民に普及啓発を行いました。地域では1人暮らし高齢者など孤立を防ぐための見守り活動を行い、必要時には相談へつなげました。市では幅広い世代・悩みに対する相談先をまとめ、リーフレットだけでなく情報にアクセスしやすい媒体を工夫し啓発を強化しました。また、商工会議所と共に、ゲートキーパー講座の開催や相談先の周知など働く世代への取組を行いました。

国では SNS 等あらゆる相談先の確保や普及啓発等、社会全体での取組みが強化されています。

指標で悪化傾向にあった壮年期に対して、職域でのメンタルヘルスに関する課題も把握しながら、取組を推進する必要があります。



(7)地域のつながり：世代を越えて交流を深めよう

指標		中間 評価	最終 評価	目標値	判定	出典
1 地域の人とのつながりが強いと感じる人の割合の増加	妊婦	23.6%	27.4%	40%	B	アンケート調査
	乳児の保護者	27.8%	18.2%	40%	D	
	年長児の保護者	33.8%	28.8%	50%	D	
	成人	27.1%	24.0%	50%	D	
2 近所との関係づくりが必要と感じる人の割合の増加	妊婦	83.6%	75.0%	90%	D	アンケート調査
	乳児の保護者	75.0%	49.1%	90%	D	
	年長児の保護者	76.3%	69.3%	90%	D	
	成人	70.6%	60.6%	90%	D	
3 就労、ボランティア活動、地域活動、趣味・おけいこ事をしていない人の割合の減少	成人 男性	20.1%	24.3%	10%	D	アンケート調査
	成人 女性	24.8%	24.1%	10%	C	

判定	A	B	C	D	E
項目数	0	1	1	8	0
割合(%)	0.0	10.0	10.0	80.0	0

A：目標に達している B：改善しているが、目標に達していない C：変わらない D：悪化している E：評価困難

【評価】

(D) の判定が全体の8割を占め、目標値を達成した項目はありませんでした。地域のつながりが強いと感じる人の割合は妊婦以外で悪化し、近所との関係づくりが必要と感じる人の割合も全ての項目で悪化しています。

第2次計画の主な取組

地域のつながりが健康づくりの土台であることについて機会を捉えて伝えてきました。また、社会福祉協議会による地域住民グループ支援事業、民生委員の地域活動や自治会の集まり、健康づくりに関するイベントを関係団体や地域の団体と開催する等、地域でのつながりや交流を育むような活動を行ってきました。

単独世帯の増加、価値観の多様化、ICT技術の進歩によるつながり方の多様化、新型コロナウイルスの感染拡大により地域の活動を自粛したこと等から地域のつながりが希薄化したことが考えられます。改めて、心と体の健康を保つため孤立しないよう多様な価値観に応じてつながりの大切さを伝える必要があります。



防府市の現状と第2次計画の評価からみえたこと

○初期の生活習慣病は自覚症状がないことがほとんどです。健康状態をチェックするために、年に1回定期的に特定健診を受ける必要がありますが、国保の特定健診受診者は3人に1人程度にとどまっています。まずは、より多くの人が健診を受け自身の健診結果を把握することが必要です。

○特定健診受診者の状況をみると、男性はメタボ該当者・予備軍の割合が4～5割であり、男女ともに年代が上がるにつれ割合が増えています。生活習慣病の予防に当たり、生活習慣の改善により一層取り組む必要があります。

○40歳から受診する特定健診の結果で血圧、LDL コレステロール（悪玉コレステロール）の要指導者・要受診者に該当した人が約半数であることや、壮年期で食生活、運動習慣、こころの健康の指標が悪化傾向となった現状があります。現在の健康状態はこれまでの生活習慣の影響を受けることから、その世代より前の若い世代、こどもの頃から、将来の生活習慣病予防につながる健康的な習慣を身につけられるよう世代に応じたアプローチが必要です。

○国民健康保険の医療費は慢性腎不全（透析あり）が最も多い状況や、HbA1c（糖尿病検査）の要指導者・要受診者の割合が約35%であること、血糖コントロール不良者の割合が県より高い現状があります。また、死因の約半数が生活習慣病によるものであることや、生活習慣病による標準化死亡比の割合が県より高いことから、命に関わる重大な状態や要介護状態にならないよう、重症化予防に関しても取り組む必要があります。